



新NACISIS-CAT/ILLの NCR2018適用について

2024年6月12日

NII学術情報基盤オープンフォーラム

これからの学術情報システム構築検討委員会
システムワークフロー検討部会 目録・メタデータ班
東北大学附属図書館 木下 直

NCR2018適用への道

これからの学術情報システムの
在り方について(2019)



これからの学術情報システムの
在り方について(2024)

(4) メタデータの高度化

他機関（NDL，出版社等）と連携し，RDA（Resource Description and Access）及び日本目録規則 2018 年版への対応のほか，BIBFRAME 等の新たな国際標準への対応について検討を行う。

(5) 学術情報資源の確保

印刷体とともに，幅広く電子情報資源（大学等のデジタルアーカイブや過去資料の電子化を含む）を確保するとともに，統合的発見環境を通じたアクセス及び資源共有を推進する方策を検討する。



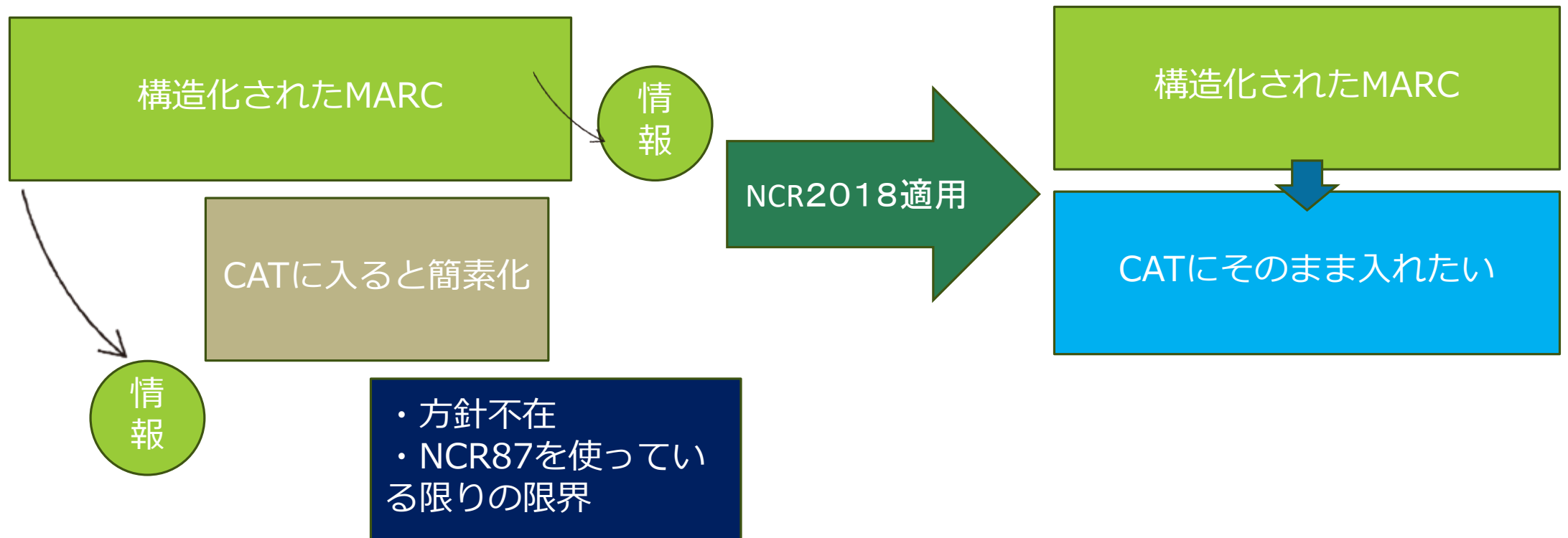
(1) 図書館システム・ネットワークの機能強化

②統合的なデータベースの構築と図書館システムとの連携

共同利用システムに集約した電子情報資源のメタデータと印刷体のメタデータに加え、デジタル化資料のメタデータを有機的に結合させた統合的なデータベースを構築するとともに、効率的に運用できる次世代 ILL 等を実現する。これらを図書館システムと連携させることで、図書館システム・ネットワークでの統合的発見環境の実現を推進する。

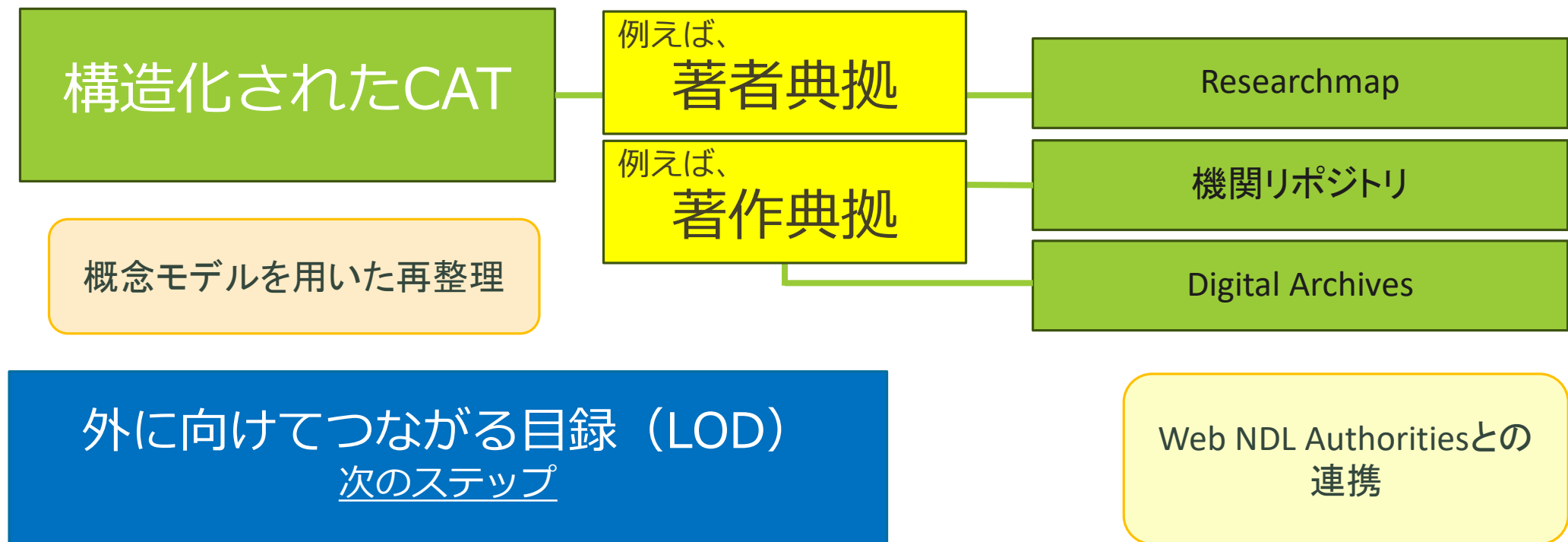
未来につながる検討

共同利用システムに集約した電子情報資源のメタデータと印刷体のメタデータに加え、デジタル化資料のメタデータを有機的に結合させた統合的なデータベースを構築するとともに、効率的に運用できる次世代 ILL 等を実現する。



未来につながる検討

共同利用システムに集約した電子情報資源のメタデータと印刷体のメタデータに加え、デジタル化資料のメタデータを**有機的に結合させた**統合的なデータベースを構築するとともに、効率的に運用できる次世代 ILL 等を実現する。



コーディングマニュアル改訂作業

パブリックコメント

前半 書誌データ部分とそれに関連する目録情報の基準

2023/12/22～2024/1/31

後半 残りの部分とそれに関連する目録情報の基準

2024/2/19～2024/3/18

沢山のご指摘 & ご意見
ありがとうございました

パブリックコメント対応

- 今回はNCR2018対応に伴う修正で、これまでのCMの運用部分に対する改訂は対応が難しい
- 例示の追加や整理は対応が難しい
- 別途取扱マニュアルのあるものは含まない。
- CMと適用細則の対照表は、適用細則の方に書く

パブコメ後の主な変更

- 機器種別以下のNOTEへの書き方（特に複数の種別がある場合）
- 情報源の記録を立項（角ガッコの補記範囲）
- 出版日付等が不明な場合のハイフンを使用する運用を廃止
- SHのヨミの分かちを、流用そのままにしてもいい

パブコメのご意見に対応しないもの

- 機器種別を書く必要があるのか（NOTE運用の間は不要では）
- 役割表示コードではわかりづらいので、今まで通りの（発売）などで運用しては
- 装丁をEDではなくVOLに入れる

コード追加

タイトルの種類コード (VTK)

ET 先行タイトル
LT 後続タイトル

出版等の役割表示 (PUBF)

d 頒布表示(distribution)
m 製作表示(manufacture)
p 制作表示(production)
c 著作権日付(copyright notice date)

件名の種類コード(SHK)

N 家族

著者名典拠の属性コード(TYPE)

f 家族

出版等の役割表示の取り扱い

出版等の役割表示 (PUBF)

d 頒布表示(distribution)

m 製作表示(manufacture)

p 制作表示(production)

c 著作権日付(copyright notice date)

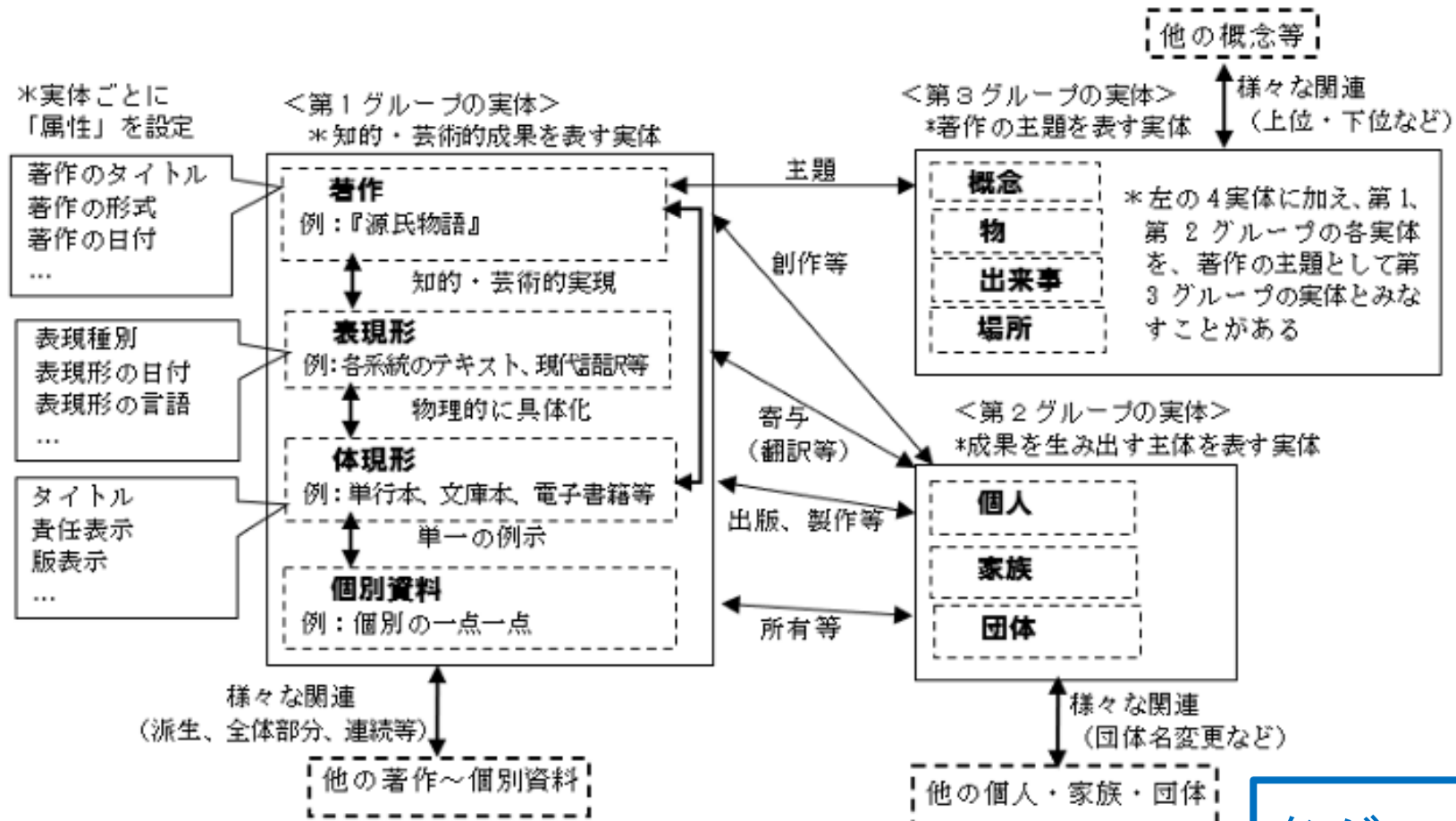
PUB:Copenhagen : Nordic Pharmacological Society , 1996 # 空値

PUB:Copenhagen : Munksgaard # d

(最初のPUBフィールドは出版表示、2番目のPUBフィールドは頒布表示)

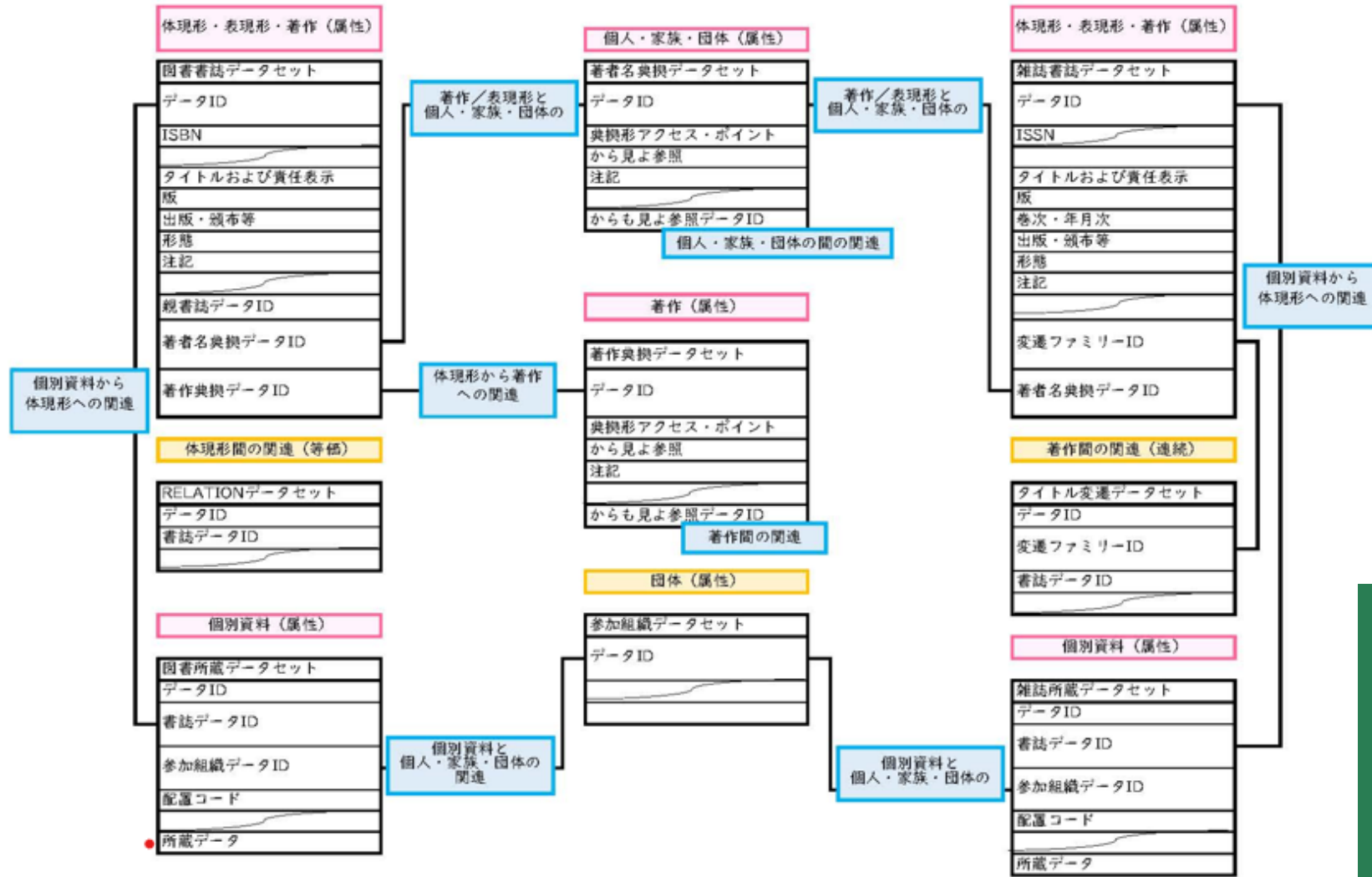
WebUIPは改修、各ベンダーでの対応が間に合わない場合は、
WebUIPで入力する運用に

NCR2018の概念モデルの変更



各グループの実体間の矢印が双方向に

NACSYS-CATにあてはめる



NACSIS-CATが当初から持っていたリンク機能を活かす

各種資料取り扱いマニュアルの変更

コーディングマニュアル完成後に作業

- 各種の言語、和漢古書、展覧会カタログ、教科書

作業に時間を要するもの

- 和漢古書/日本語の古典作品についての著作典拠作成
- 視聴覚資料、電子ブック

著作の取り扱い

- a) 日本、中国等の古典籍
- b) 聖典
- c) 無著者名古典
- d) 音楽作品
- e) その他識別する必要があると判断した著作



これまで作成されたデータへの対応
近現代の文学著作、動画など

これから取り込まれるデータへの対応
NDL：日本語のタイトルが複数存在する近現代の作品

これから作成するデータへの対応
取り扱いについて検討中

NCR2018適用に向けた研修

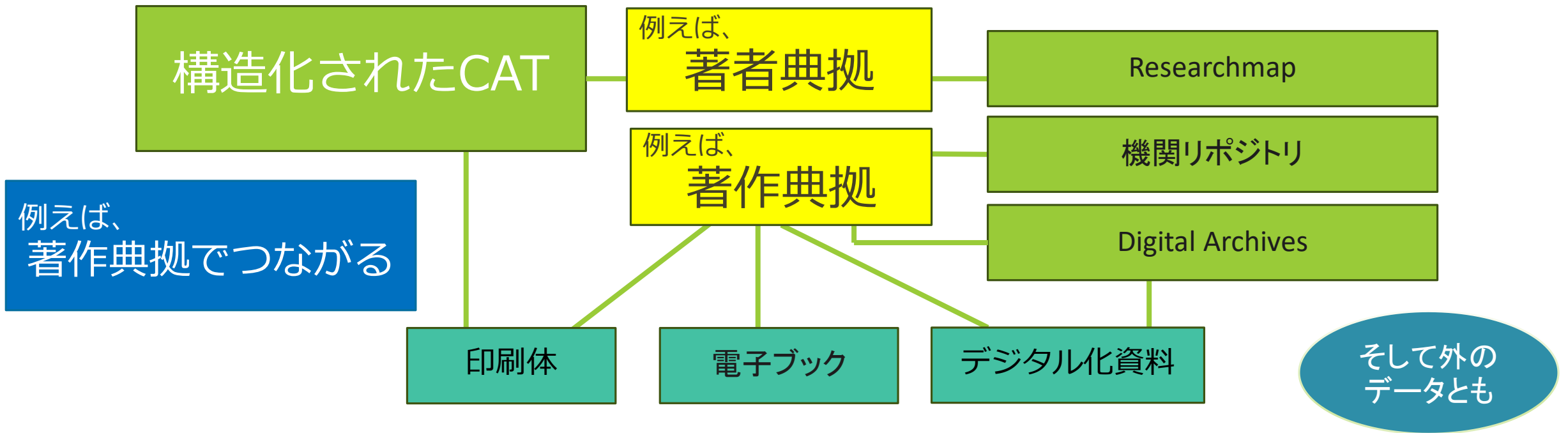
- 研修資料は現在作成中
(CAT2020のときと同じような補講形式)
- オンラインによる講習
- 2024年8月公開予定
- 研修イベント 2024年9月実施予定

今後のスケジュール

2024年6月	パブリックコメント反映版これから委員会審議
2024年7月頃	パブリックコメントを反映したコーディングマニュアルと目録情報の基準の改定版の公開
2024年8～9月頃	新コーディングマニュアルと目録情報の基準による目録システム教材の公開と研修イベントの実施
2024年10月頃	NCR2018の適用開始* *NACSIS-CATのシステム改修の完了時期により変更の可能性あり

未来につながるCAT

共同利用システムに集約した電子情報資源のメタデータと印刷体のメタデータに加え、デジタル化資料のメタデータを**有機的に結合させた**統合的なデータベースを構築するとともに、効率的に運用できる次世代 ILL 等を実現する。



NCR2018適用がよいよよいよ始まります
